

インドネシア貿易研修センター事業

計画打合せ調査団報告書

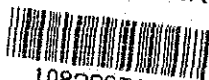
平成元年(1989年)9月

国際協力事業団



インドネシア貿易研修センター事業
計画打合せ調査団報告書

JICA LIBRARY



1082235[1]

21138

平成元年(1989年)9月

国際協力事業団

国際協力事業団

21138

序 文

本プロジェクトは、インドネシア政府の輸出促進に寄与すべく人材養成を目的とした「貿易研修センター」構想を受け、昭和63年9月2日から協力期間5年間として開始されたものである。

無償資金協力によるセンターの建物は平成元年3月末に完成し、インドネシア側に引き渡され、今後の協力活動が期待される場所である。

本報告書は、これまでの我が方の協力実績の確認とプロジェクトの運営管理についてイ側関係者と協議するために派遣された計画打合せ調査団の調査結果をとりまとめたものである。

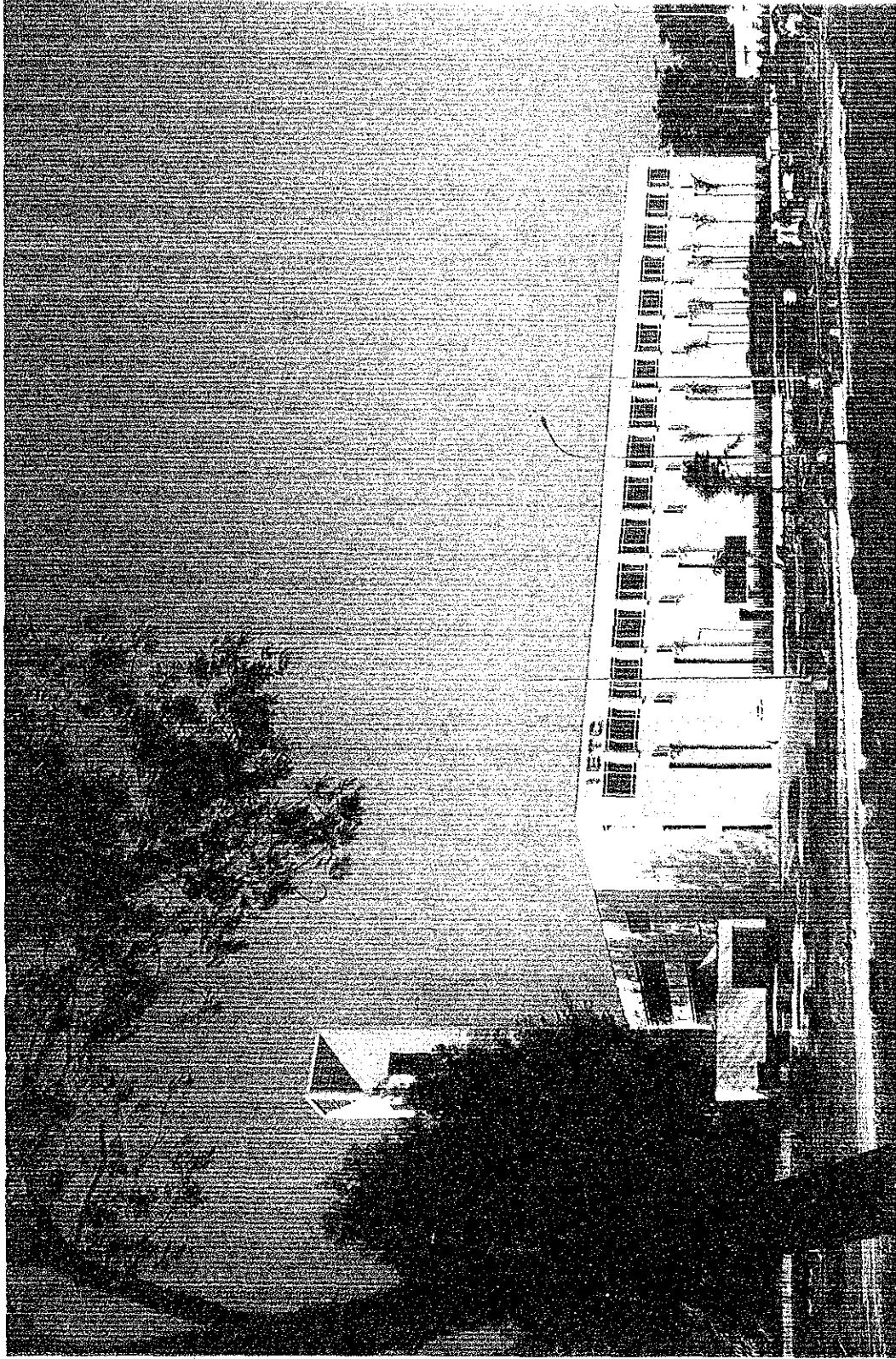
ここに本調査団派遣に関し御協力いただいた日・イ両国の関係各位に対し、深甚なる謝意を表するとともに、今後とも本技術協力の成功のために一層の御協力をお願いする次第である。

平成元年9月

国際協力事業団

鉱工業開発協力部

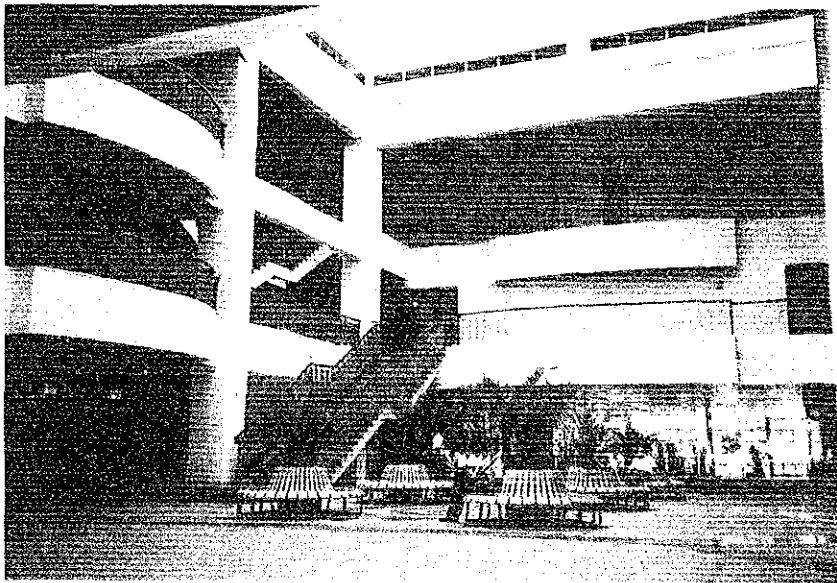
部長 山崎 宗重



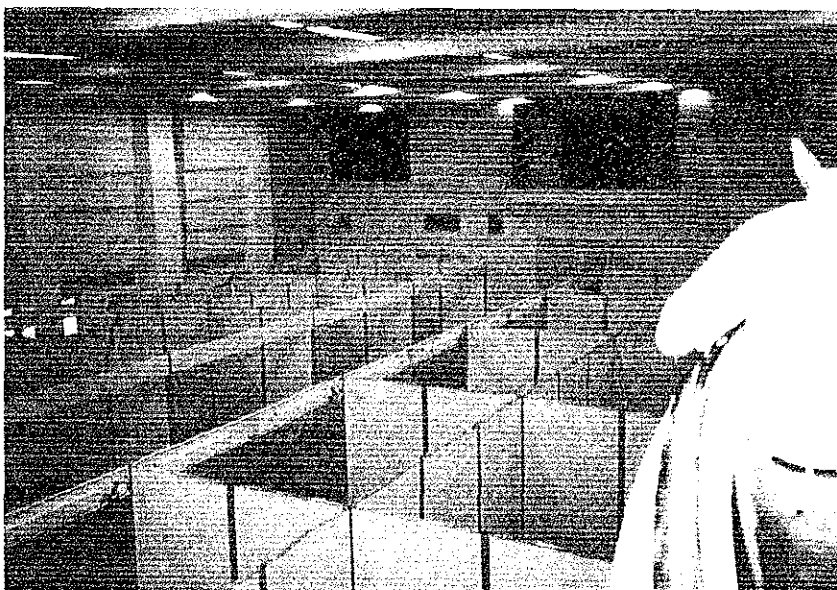
センター全景



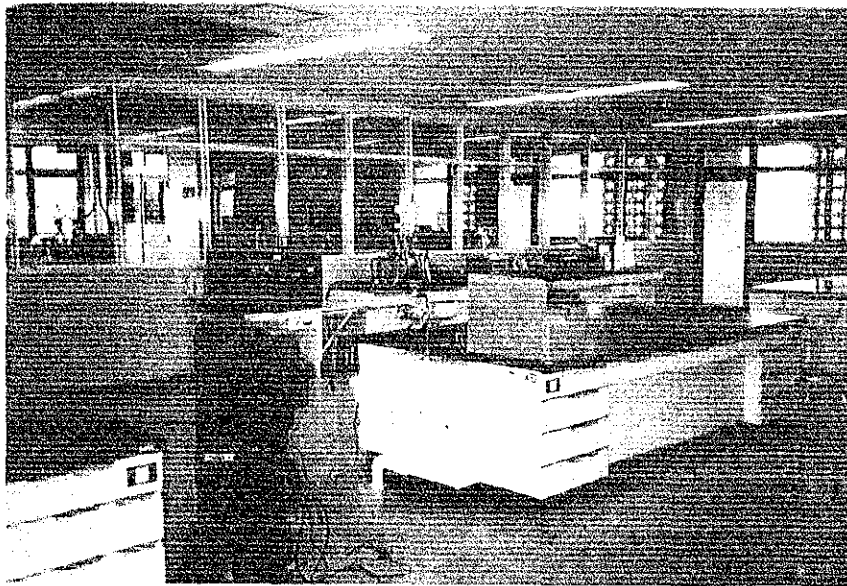
ミニッツ署名



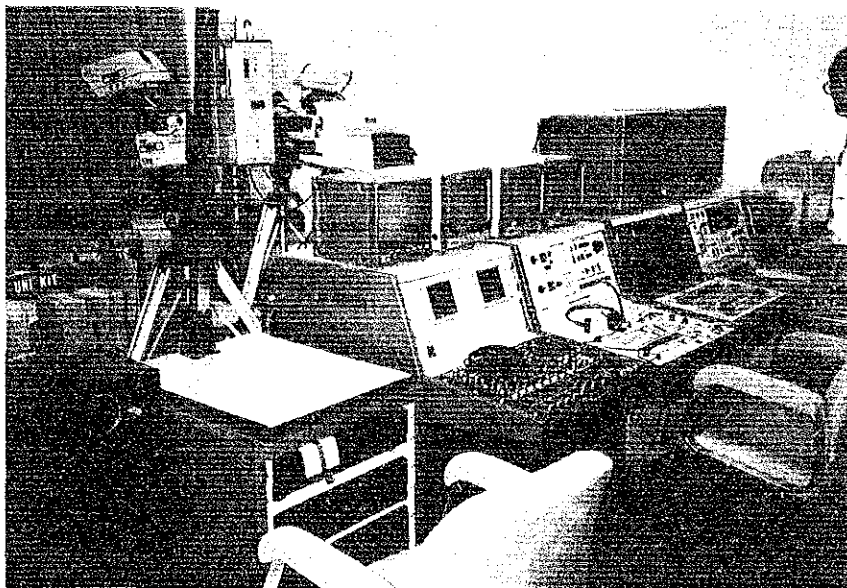
ロビー



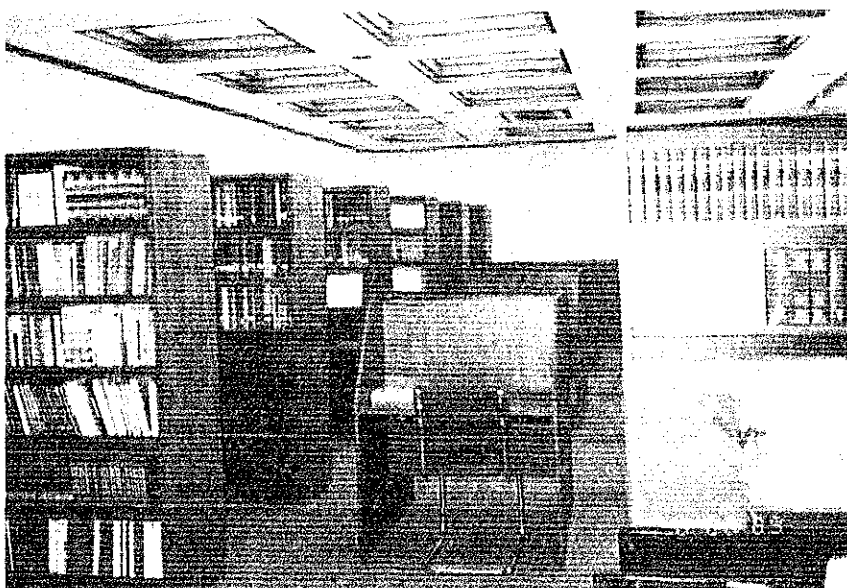
展示ホール



輸出検査用機器類



A V 機材



図書室

目 次

I 計画打合せ調査団派遣	1
1. 派遣目的	1
2. 調査団の構成	1
3. 調査日程	1
4. 主な面談者	2
5. 調査団主要調査項目	2
II 調査結果	6
1. 全体協議の内容	6
2. 個別調査項目	6
3. 専門家との打合せ	9
III 調査団所感・その他	15
ミニッツ	17

I 計画打合せ調査団派遣

1. 派遣目的

本件協力事業は昭和63年9月2日より5年間にわたり、インドネシア共和国において「貿易実務」「輸出検査」及び輸出品の「展示」分野の人的資源を養成し、同国の輸出促進に資することを目的として実施されている。

現在、上記協力内容に係る技術移転を行うためチーム・リーダーを含めて8名の専門家を昨年12月から順次派遣中である。

今回の調査団派遣目的は、無償資金協力による建物が本年5月23日正式にインドネシア側に引き渡しされたことを踏まえ、本プロジェクトの立ち上がり之际、現地における諸問題を検討し、プロジェクトの運営管理について「イ」側関係者及び派遣専門家と協議の上、議事録(M/D)としてとりまとめる。

2. 調査団の構成

分 担	氏 名	所 属
団長 総 括	長 沢 幸 敏	国際協力事業団 鉦工業開発協力部 鉦工業開発技術課長
団員 研修計画	木 下 雅 司	国際協力事業団 研修事業部 研修第三課
団員 業務調整	千 葉 滋 輔	国際協力事業団 鉦工業開発協力部 鉦工業開発技術課

3. 調査日程

日 順	月 日	曜 日	業 務 内 容
第1日	8/21	月	東京 —— ジャカルタ (往路)
第2日	22	火	商業省表敬、JICA事務所表敬・打合せ、専門家と打合せ
第3日	23	水	インドネシア側チームと協議
第4日	24	木	ミニッツ (案) 検討
第5日	25	金	ミニッツ署名、JICA事務所報告、長沢団長・木下団員帰国
第6日	26	土	専門家と打合せ、建物施設見学
第7日	27	日	
第8日	28	月	ジャカルタ —— 東京 (帰路)

4. 主な面談者

(1) インドネシア側関係者

① Secretary General, Ministry of Trade	Bakir Hasan, MBA.
② Director, IETC	Donnie Djalnika
③ Director, ETTC	M. I. Krismurti
④ Head Bureau of Organization	R. M. Sudianto
⑤ Head, Division, IETC	Nurdin Noor
⑥ Head, Division, IETC	Nurlaili
⑦ Head, Division, IETC	Janvar
⑧ Head, Division Bureau of Planning	I. Hendriana
⑨ Head, Division Bureau of Pural	Lily Rosyana
⑩ Head, Division Bureau of Personnel	Dulimin
⑪ Staff, NAFED	Akinaga Sinaga

(2) 日本側関係者

① 日本国大使館	一等書記官	倉持治彦
② JICA事務所	次長	松岡和久
	所員	熊代輝義
③ JICA専門家	リーダー	山本隆史
	業務調整員	平山隆馬
	貿易研修	青木桂城
	”	栗原徳弘
	輸出検査(ゴム)	山本慧介
	” (家具)	佐野吉雄
	” (繊維)	福岡孝光
	商業日本語	本多敏子

5. 調査団主要調査項目

本調査団の主要調査項目は以下のとおり。

計画打合せ調査団主要調査項目

項 目	現 状 及 び 経 緯	調 査 項 目
1. 暫定実施計画の進捗状況の把握		
1-1. (日本側)		
a) 専門家派遣	<p><長期>派遣中 7名 チーム・リーダー 1名 (63. 12. 20派遣) 調整員 1名 (") 貿易実務 2名 (1. 3. 29派遣) 輸出検査 (ゴム) 1名 (") 輸出検査 (繊維) 1名 (1. 4. 1派遣) 商業日本語 1名 (1. 4. 15派遣)</p> <p>・食品及び家具輸出検査の専門家については、それぞれ8月中に派遣予定。</p> <p><短期>63年度派遣実績なし</p>	1)元年度要請分野・内容・時期について検討
b) 研修員受入れ	62年度：2名 63年度：3名 (貿易実務 2名、展示 1名) 元年度：6名 (貿易実務 2名、商業日本語 1名、 ム・繊維・食品輸出検査 各 1名)	1)元年度研修員氏名の確認及び研修計画の作成
c) 機材供与	既供与機材・携行機材： 別添 供与機材・携行機材実績 * 供与機材は本年8月購送予定	1)元年度供与機材の選定
1-2. (インドネシア側)		
a) センター施設利用状況	無償資金協力による施設は本年4月末に完成し5月23日インドネシア側に引き渡しされたが、商業省内の事務手続きに時間がかかり、まだ正式に使用できる状態にない。	1)センター使用可能及び専門家執務室移転時期の確認 2)建物・機材据付状況
b) センター組織状況	商業省兼務の職員が、11名配置されている。	1)各課の所掌業務・機能・人員
c) センター予算措置状況	平成元年度予算 300,000 千ルピア (約24百万円) * 要求額-2,171,945 千ルピア	1)左記確認する 2)63年度決算
2. 協力分野別活動状況	各専門家とインドネシア側は、分野別にワーキンググループを作り、研修スケジュール及びカリキュラムを作成中である。	1)C/Pへの技術移転計画 2)元年度セミナー活動計画 (セミナーの開催など)
3. 実施運営上の問題点	<p>1) I E T C の人員配置 当初計画177名に対し、現在11名の職員しか配置されておらず、しかも所長はじめこれら職員は、商業省と兼務である。</p> <p>2) センター建物及び機材 イ側に引き渡されてから既に1ヶ月半以上経過しているが、まだ正式に使用できない。</p> <p>3) センター予算 イ側の元年度センター予算は、要求額に対し、13.8%しか認められていない。 (人件費は、要求額の4.6%足らず)</p>	<p>1) 今後のセンター職員 (C/P含む) 配置計画</p> <p>2) 早く使用できるようにイ側関係者に依頼する。</p> <p>3) 予算額の妥当性と不足額に対する今後の見直し</p>

＜専門家派遣・研修員受入実績表＞

＜専門家派遣実績＞

専門家氏名	担当分野	派遣期間	所 属 先
山本隆史	リーダー兼展示	1988.12.20～1990.12.19	日本貿易振興会
平山隆馬	業務調整	同 上	無
青木桂城	貿易研修	1989.3.29～1991.3.28	コスモ石油㈱
栗原徳弘	貿易研修	同 上	伊藤忠商事㈱
山本慧介	ゴム輸出検査	同 上	㈱ブリヂストン
福岡孝光	繊維輸出検査	1989.4.1～1990.3.31	通産省通商産業検査所
本多敏子	商業日本語	1989.4.15～1991.4.14	国際協力サービスセンター
佐野吉雄	家具輸出検査	1989.8.1～1991.7.31	通産省製品科学研究所

＜研修員受入実績＞

研修分野	氏 名	現 職	待遇	研修内容	研修期間	主な研修受入れ先
87年度	貿易研修	Ms. Lilly Rosyana	準高	貿易実務	'87.12.2～'87.12.13	通産検査所、貿易研修センター、JETRO、民間企業
		試験品質管理	準高	試験・検査技術	"	通産検査所、東京農林規格検査所、ブリヂストン㈱ 他
88年度	貿易研修	Mr. ANTONIUS K	一般	貿易実務	'89.2.10～'89.3.30	JETRO、伊藤忠商事、コスモ 他
	貿易研修	Mr. M. Syahminan	一般	貿易実務	"	"
	展示	Mr. S. Tambunan	一般	展示手法	'89.3.17～'89.4.4	電通、アゼアセンター、JETRO、横浜博 他

供与機材実績

1988年度

車輛（ワゴンタイプ、現地調達） 1台

オーバーヘッドプロジェクター 2台

前処理濾過装置 3組

試薬品類

1989年度

検討中

携行機材実績

1989年度

カメラ 1式

電動タイプライター 1台

和文ワープロ 1台

記録紙

日本語教材カセットテープ

書籍

その他（事務用品）

Ⅱ 調査結果

1. 全体協議の内容

本調査団は、商業省次官への表敬とともに派遣専門家との打合せの後、① I E T C の組織、② 専任カウンターパートの配置、③ センター予算、④ 研修コース開講計画、及び⑤ 施設の有効利用等について、イ側関係者と協議し、その結果をミニッツに取りまとめ、双方署名した。

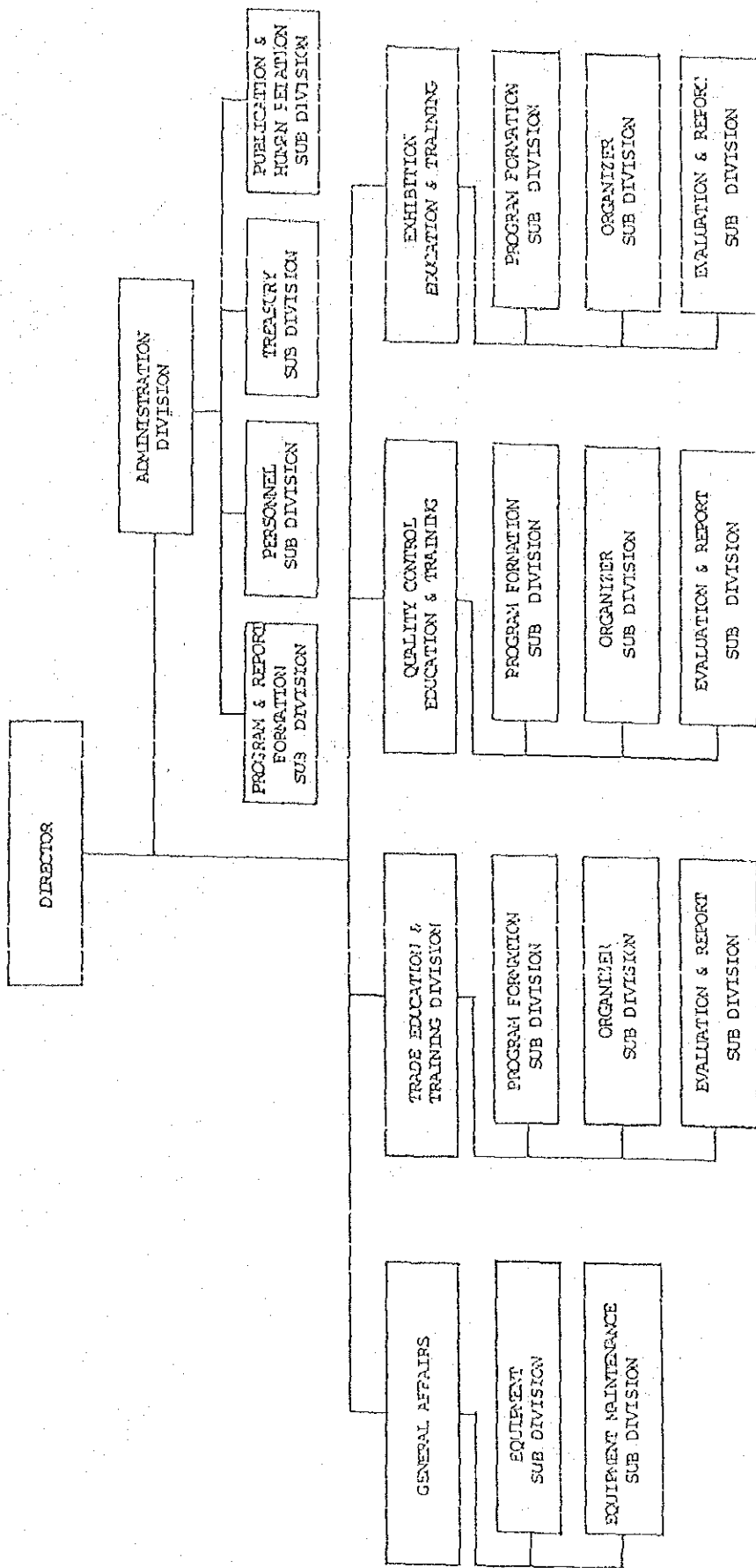
これら項目の調査結果については、後述するが、何れにせよ、センター職員の配置や予算の確保にしてもプロジェクト全体を押し進めるためには、I E T C が商業省の外局の一組織として正式に認定されることが大前提であるため、次官をはじめイ側関係者に対し、早急な対応を要請した。

2. 個別調査項目

(1) センター組織

センター職員の配置については、前記 I で述べたように、I E T C を商業省の外局の一組織として正式に認定する大統領令待ちということであった。イ側としては、最終的な職員数として、189名（商業省教員訓練センターの職員57名を含む）の配置を計画しており、大統領令が発布なり次第、積極的にリクルートを開始するとのことであった。センターの組織図については、別図のとおり。

ORGANIZATION CHARTS OF IETC



(2) カウンターパートの配置

7月現在のカウンターパートの配置状況は下表のとおり、当初計画30名に対し、11名となっているが、実質専任カウンターパートとしては2名のみの状態である。

指導分野	計画		カウンターパートの性質
	計画	実績	
貿易研修	8	4	全員商業省と兼務であり、専任は1人もいない
商業日本語	3	3	同上
展示	5	1	専任の候補者はいるが、まだ正式な任命がない
輸出検査(ゴム)	4	1	専任
輸出検査(繊維)	2	1	TQC職員で、IETCに常駐している
輸出検査(家具)	4	0	近日中に任命される予定
輸出検査(食品)	4	1	専任
合計	30	11	

我が方より、今後の配置予定について質したところ、イ側より専任のセンター職員及びカウンターパートとして既に15名をノミネート(別紙参照)し、現在、大臣からの正式な任命を待っているとの説明があった。

また、既に日本での研修を受けた研修員については、最優先で専任のカウンターパートにするよう要請したところ、イ側よりIETCが正式な組織として認められれば、早速任命するとの回答があった。

さらに、繊維輸出検査のカウンターパートについて、配置人数を4名(当初計画では2名)に増やすよう要請したところ、イ側もこれを了承した。

(3) センター予算

① 1988年度予算実績

イ側の説明によると、1988年度予算の実績は、299.5百万ルピア(約24百万円)の予算に対し、支出は236百万ルピア(約19百万円、執行率78.8%)である。本予算が当初計画より、大幅に削られたのはセンターの活動期間が短かったことによる。

② 1989年度予算措置

イ側より、本年度予算の経過について以下の説明があった。

センター関係者は、本年度予算として大蔵当局に対し、約2,028百万ルピア(約162百万円)を要求したが、暫定措置として300百万ルピア(約24百万円、要求額比14.8%)しか認められなかった(内訳は、別表1参照)。本年度予算が要求額の14.8%しか認められなかった理由は、①インドネシアの予算全体が厳しいこと、②300百万ルピアはあくまでセンターのBasic

Activitiesに対する予算である。(従って、大蔵当局が今後センターの活動を高く評価すれば、追加予算の可能性もあり得ること)

その後、復活折衝で331,8百万ルピアの追加が認められた(内訳は、別表2参照)。

我が方より、本年度予算の中に①家具と食品検査の活動費、②センター開所式(来年1月予定)の費用及び③宿泊所等付属施設の運営管理費が計上されていない理由について質したところ、イ側より、①と②については別途予算を確保する、③については今年度利用する計画がないので予算措置できない旨説明があった。

(4) センター施設及び機材使用状況

日本側からイ側への建物及び機材の引き渡しについては、それぞれ5月23日と6月上旬に終了したが、現在までのところ、商業省内での無償担当者と技協担当者間の完全な引き渡しが終わっていないため、自由に使用できる状態になかった。この点について、長沢団長よりイ側に対し、日本人専門家が早く使用できるよう善処してほしい旨強く要請した。

専門家の執務室への移転は、7月25日から29日にかけて行なわれ、無事終了した。

なお、建物及び付属設備については特に問題はなかったが、電話回線のみ2本(申請は8本)しか敷かれていないため、外部との連絡に支障をきたしていた。

3. 専門家との打合せ

(1) 活動実績及び今後の予定

専門家の活動実績については、現在までのところ、各分野において適正なカウンターパートが配置されていないため、本格的な技術移転ができず、従って主に各種の計画案作成等を行っている。なお、今迄の活動内容及び今後の予定については、別表3のとおり。

(2) 研修員受入れ

① 研修計画作成要領

本件プロジェクトに係るカウンターパート研修については、現在までに11名の要請があるが、うち前年度には展示1名、貿易研修2名を受け入れた。その際、いくつかの問題点が指摘されたため、調査団は、派遣専門家に詳細を確認すると共に、元年度以降の受入計画に関し、打合せを行なった。

第一の問題点は、カウンターパートの技術移転計画が整っていないため、現地研修(専門家の指導)と本邦研修とのリンケージが不明瞭であることである。この点に関しては、カウンターパートの正式配置が行なわれていないため、全体の技術移転計画が策定できないとのコメントが専門家からあったが、調査団からは、現在ノミネートされている候補者を対象に、早急に全体研修計画案を作成するよう努力して欲しい旨申し入れた。

第2は、専門家が、本邦研修を実施する受入先と十分な事前打合せをしていないことである。調査団からは、本邦研修は、専門家の所属先や機材の納入先において実施するのが最も

効果的であり、本邦研修の内容は、あくまで現地指導の補完的部分にとどまり、この面でも全体の技術移転計画の策定と、現地指導内容、本邦研修希望内容のデマケーションの明確化が求められる旨説明し、あわせて今後は予定される受入先と十分事前打合せを行うよう申し入れした。

② 平成元年度研修計画

当年度研修の実施にあたっては下記のとおり行うこととなった。

1) 貿易研修

財団法人貿易研修センター（IIST）を中心に4ヶ月半実施する。主として貿易理論面での研修を行う。

2) 規格検査・品質管理（ゴム）

株式会社ブリヂストンを中心に3ヶ月弱の研修を行うが、研修員が規格検査部門の責任者であるので、我が国の品質管理制度の概要を理解させるため、あわせて集団コース「工業標準化品質管理シニアセミナー」にも参加させる。

3) 規格検査・品質管理（繊維）

通産省通産検査所を中心に3ヶ月弱の研修を実施する。

4) 商業日本語

TIC日本語室を中心に5ヶ月間、集中して日本語研修を実施した後、各種日本語学校を見学し、日本語教授法に関する研修を行う。

なお、本邦研修の実施時期は、平成二年度開始される本格的なコース運営に先立ち、予備研修（専門家とカウンターパートによる2週間程度の短期コース）が実施されることから、10月頃を予定している。

(3) 短期専門家派遣

平成元年度の短期専門家については、展示分野のみ上級コースのカリキュラム作成のため、山本（隆）専門家より派遣要請が出された。

(4) 供与機材

平成元年度の機材要請については、近日中に正式にイ側より提出される予定であるが、取り敢えず、各専門家に主な必要機材をリストアップしてもらったところ、以下のとおりとなった。

① 輸出検査（家具）

圧縮・曲げ試験装置

剪断試験用治具

剪断試験用試験片圧縮具

② 輸出検査（ゴム）

熱分解ガスクロマトグラフ

イオウ分析装置

③ 輸出検査（繊維）

恒温恒湿室

紫外可視分光光度計

④ 商業日本語

カセットプリンター

テープレコーダー

ラジオカセット

これら機材の購送については今後、その必要性を検討し、他の機材と合わせ本年度予算内に収まるよう調整する必要がある。

別表 1

Unit : The upper Nos of persons
The lower Rupiah

ITIC BUDGET FOR 1989/1990 FY

	Administ'n	Trade	Business Jap	Exhibition	Inspection & Quality Control				Total
					Furniture	Textile	Rubber	Foods	
1. Salary & wage	28 8,860,000	9 2,085,000	9 5,585,000	12 3,462,500	0	5 1,625,000	5 1,625,000	0 27,042,000	
(1) Chairman	1 540,000	1 105,000	1 315,000	1 105,000	0	1 35,000	1 35,000	0 1,135,000	
(2) Secretary/Staff	5 1,500,000	3 270,000	3 810,000	5 450,000	0	3 90,000	3 90,000	0 3,210,000	
(3) Tutor	0	1 1,350,000	1 8,100,000	1 2,750,000	0	1 1,500,000	1 1,500,000	0 14,700,000	
(4) C/P	0	0	0	1 97,500	0	0	0	0 97,500	
(5) Moderator	0	2 180,000	2 180,000	0	0	0	0	0 360,000	
(6) Resource Person	10 4,320,000	2 180,000	2 180,000	4 360,000	0	0	0	0 5,040,000	
(7) Driver	4 1,000,000	0	0	0	0	0	0	0 1,000,000	
(8) Genitor	2 300,000	0	0	0	0	0	0	0 300,000	
(9) Securities	6 1,200,000	0	0	0	0	0	0	0 1,200,000	
2. Materials & Equipment	5,000,000	2,802,500	2,902,500	2,802,500	0	2,492,500	2,092,500	0 18,292,500	
(1) Stationery	5,000,000	562,500	562,500	562,500	0	112,500	112,500	0 6,912,500	
(2) Books	0	2,340,000	2,340,000	2,340,000	0	480,000	480,000	0 7,980,000	
(3) Samples for Practices	0	0	0	0	0	0	500,000	0 1,300,000	
(4) Chemical/Other materials	0	0	0	0	0	1,100,000	1,000,000	0 2,100,000	
3. Instrument and Machine	16,625,000	0	0	0	0	0	0	0 16,625,000	
4. Travel Expenses	15,180,000	1,260,000	0	1,200,000	0	400,000	400,000	0 18,040,000	
(1) Local Field Study	15,180,000	1,200,000	0	1,200,000	0	400,000	400,000	0 18,380,000	
(2) Comparative Study Abroad	0	0	0	0	0	0	0	0 0	
5. Other Expenses	143,720,000	8,185,000	28,125,000	12,450,000	0	4,560,000	4,420,000	0 201,450,000	
(1) Expenses for Administ'n	131,817,000	0	22,050,000	3,675,000	0	2,500,000	2,500,000	0 131,817,000	
(2) Consumption Cost for Participants	0	150,000	2,700,000	450,000	0	375,000	375,000	0 34,400,000	
(3) Tutor's Transportation	0	1,435,000	1,050,000	1,050,000	0	840,000	760,000	0 4,050,000	
(4) Tutor's Paper	0	225,000	225,000	225,000	0	45,000	45,000	0 5,075,000	
(5) Certificate Printing Cost	5,253,000	600,000	150,000	600,000	0	200,000	200,000	0 6,853,000	
(6) Report/Documentation	1,350,000	900,000	900,000	900,000	0	50,000	50,000	0 1,900,000	
(7) Consumption cost for Evaluation	0	1,050,000	1,050,000	700,000	0	250,000	250,000	0 3,350,000	
(8) Preparation	0	0	0	3,700,000	0	0	0	0 3,700,000	
(9) Opening/Closing ceremony	0	0	0	900,000	0	0	0	0 900,000	
(10) Install/Break the Shilin Stages	5,300,000	0	0	0	0	0	0	0 5,300,000	
(11) Other Facilities	18,200,000	0	0	0	0	0	0	0 18,200,000	
6. PUBLICATION	7,400,000	0	0	0	0	0	0	0 7,400,000	
(1) ITIC Brochure	3,500,000	0	0	0	0	0	0	0 3,500,000	
(2) Advertising	1,500,000	0	0	0	0	0	0	0 1,500,000	
(3) Press Conference	2,000,000	0	0	0	0	0	0	0 2,000,000	
(4) TV Appearance	4,000,000	0	0	0	0	0	0	0 4,000,000	
(5) Documentation, Video, Photos, ect	0	0	0	0	0	0	0	0 0	
TOTAL	207,585,000	14,372,500	40,612,500	19,815,000	0	9,077,500	8,537,500	0 300,000,000	

別表 2

IEFC BUDGET FOR 1989/1990 FY

Unit: The upper % of person
The lower Pupiah

	Administration	Trade	Business Jap	Exhibition	Inspection & Quality Control				Total
					Furniture	Textile	Rubber	Foods	
1. Salary & Wage	8,064,000	1,350,000	5,700,000	1,727,000	0	850,000	850,000	0	16,539,000
(1) Chairman	366,000	105,000	315,000	105,000	0	35,000	35,000	0	943,000
(2) Secretary/Staff	1,000,000	195,000	585,000	195,000	0	65,000	65,000	0	2,105,000
(3) Tutor	0	750,000	4,300,000	1,125,000	0	750,000	750,000	0	7,875,000
(4) C/P	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(5) Moderator	0	150,000	150,000	0	0	0	0	0	300,000
(6) Resource Person	5,184,000	150,000	150,000	300,000	0	0	0	0	5,784,000
(7) Driver	468,000	0	0	0	0	0	0	0	468,000
(8) Genitor	288,000	0	0	0	0	0	0	0	288,000
(9) Securities	816,000	0	0	0	0	0	0	0	816,000
2. Materials & Equipment	2,200,000	1,612,500	1,612,500	1,612,500	0	1,578,000	1,578,000	0	9,807,500
(1) Stationery	2,200,000	632,500	637,500	637,500	0	1,737,500	1,737,500	0	2,157,500
(2) Books	0	975,000	975,000	975,000	0	250,000	250,000	0	3,175,000
(3) Samples for Practices	0	0	0	0	0	500,000	500,000	0	750,000
(4) Chemical/Other materials	0	0	0	0	0	700,500	700,500	0	1,500,000
3. Instrument and Machine	18,855,000	0	0	0	0	0	0	0	18,855,000
4. Travel expense	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5. Construction	129,444,000	0	0	0	0	0	0	0	129,444,000
(1) Consultant fee	105,644,000	0	0	0	0	0	0	0	105,644,000
(2) AC, lift, set (maintenance)	4,800,000	0	0	0	0	0	0	0	4,800,000
(3) Cleaning Service B building	19,000,000	0	0	0	0	0	0	0	19,000,000
6. Other Expenses	119,840,000	3,832,500	5,919,500	6,001,500	0	1,992,500	1,832,500	0	139,418,500
(1) Expenses for Administration	110,100,000	0	0	0	0	0	0	0	110,100,000
(2) Multifying manuscript	0	299,000	104,000	78,000	0	192,000	160,000	0	633,000
(3) Tutor's Transportation	0	150,000	2,700,000	450,000	0	375,000	375,000	0	4,050,000
(4) Tutor's Paper	0	736,000	768,000	576,000	0	768,000	640,000	0	3,488,000
(5) Certificate Printing Cost	0	187,500	187,500	187,500	0	37,500	37,500	0	617,500
(6) Reproduction	4,500,000	300,000	0	300,000	0	100,000	100,000	0	5,300,000
(7) Consumption cost for evaluation	240,000	150,000	60,000	60,000	0	20,000	20,000	0	550,000
(8) Preparation/opening & closing ceremony	0	2,010,000	2,100,000	2,100,000	0	500,000	500,000	0	7,210,000
(9) Initial/Break the Exhibit Stages	0	0	0	2,250,000	0	0	0	0	2,250,000
(10) Other facilities	5,000,000	0	0	0	0	0	0	0	5,000,000
7. Publication	15,717,000	0	0	0	0	0	0	0	15,717,000
(1) IEFC Brochure	10,717,000	0	0	0	0	0	0	0	10,717,000
(2) Advertising & Press Conferensi	2,000,000	0	0	0	0	0	0	0	2,000,000
(3) Documentation/visual	3,000,000	0	0	0	0	0	0	0	3,000,000
Total	294,160,000	6,195,000	13,231,500	9,139,000	0	4,170,000	3,650,500	0	331,206,000

別表3

専門家の活動状況及び今後の予定

分野	専門家氏名	派遣期間	今後の活動状況	今後の活動予定
貿易研修	青木桂城	1989. 3. 29～1991. 3. 28	<ul style="list-style-type: none"> Working Group を設置し、研修カリキュラム等について10回程度打合せ実施 Local Surveyの計画書作成 元年度研修員の研修計画案作成 本分野における両専門家の分担 現地日本企業からの情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> ETCCにおいて教授法の実戦（8月下旬より1ヶ月） プレセミナー開催（90年1月及び2月） Local Survey実施 C/P技術移転計画の作成
	栗原徳弘	1989. 3. 29～1991. 3. 28		
展 示	山本隆史	1988. 12. 20～1990. 12. 19	<ul style="list-style-type: none"> 「I」側担当者と今年度活動計画について打合せ Local Surveyの計画書作成 	<ul style="list-style-type: none"> プレセミナー開催（90年1月及び3月） Local Survey実施
商業日本語	本多敏子	1989. 4. 15～1991. 4. 14	<ul style="list-style-type: none"> 7月開講予定であった日本語コースの準備 Local Surveyの計画書作成 現地日本語学校の視察 	<ul style="list-style-type: none"> プレセミナー開催（90年3月） C/P技術移転計画の作成
ゴム検査	山本慧介	1989. 3. 29～1991. 3. 28	<ul style="list-style-type: none"> Local Surveyの計画書作成 無償機材のチェック及び操作方法の指導 教材作成 	<ul style="list-style-type: none"> プレセミナー開催（90年3月） Local Survey実施 教材作成
繊維検査	福岡孝光	1989. 4. 1～1990. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> C/P技術移転計画の作成 Local Surveyの計画書作成 繊維研究所視察 無償機材のチェック 	<ul style="list-style-type: none"> プレセミナー開催（90年3月） Local Survey実施 教材作成
家具検査	佐野吉雄	1989. 8. 1～1991. 7. 31	<ul style="list-style-type: none"> 無償機材のチェック 	<ul style="list-style-type: none"> 年次計画及びC/P技術移転計画の作成 プレセミナー開催（90年3月）

Ⅲ 調査団所感・その他

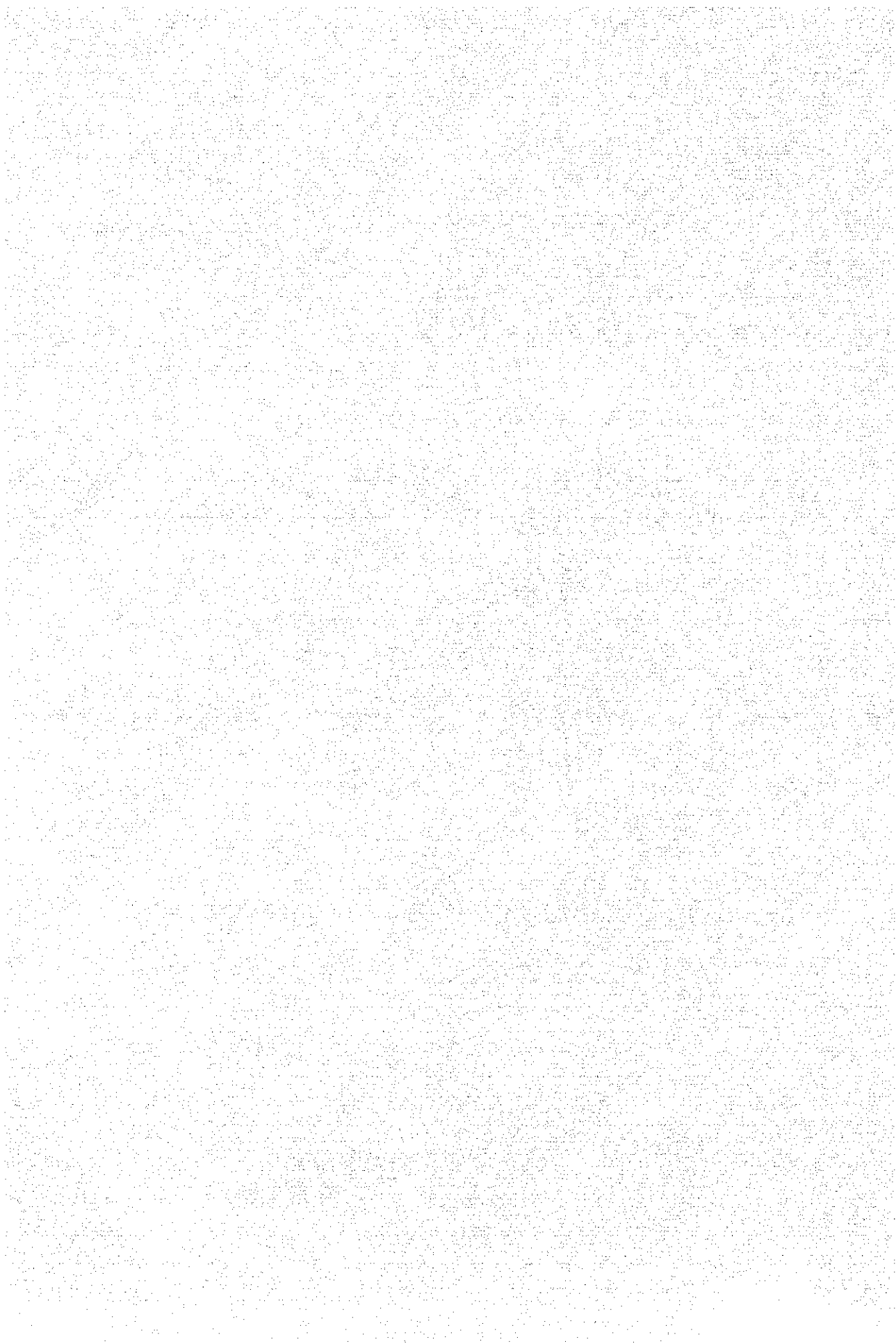
今回の調査団は、センター建物が完成したことに伴い、本プロジェクトをできるだけ早く軌道に乗せるため、現状の問題点と今後の計画についてイ側関係者と協議することを目的として派遣された。協議に先だって、バキールハッサン商業省次官を表敬した際、同次官自ら、本センターの目的及び現状について詳細な説明を行い、また我が方の全面的な協力依頼があり、イ側の本プロジェクトに対する期待が大きいことが感じられた。

全体協議の経過については、我が方より事前に提出しておいたQuestionnaireに基づき、イ側からそれぞれの項目についての説明を受け、双方十分意見を出し合った。協議結果は、別添ミニッツに取りまとめ、イ側の取るべき措置について、最大限努力する旨確認した。我が方にとっても現状の問題が改善されない限り、本格的な技術協力（カウンターパートへの技術移転）ができない状態であるため、もし今後何んら進展がなければ、繰り返しイ側に対し、改善要請を行う必要がある。また、滞在中、次官を始めイ側関係者から我が方に対し、予算面の援助及び書籍等の機材要請が出されたが、これらについては今後、プロジェクトの進捗状況を見ながら、検討するほうが賢明である。

なお、本調査団で打合せできなかった各分野の技術協力計画については、今後長期専門家に複数の専任カウンターパートが配置された時点で、短期専門家を派遣して作成する予定である。

何れにせよ、本プロジェクトにとって、直面している問題の改善が、喫緊の課題である。

ニ ッ ツ



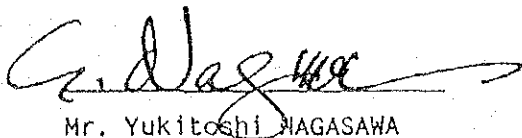
MINUTES OF DISCUSSIONS
ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR THE PROJECT ON THE INDONESIA EXPORT TRAINING CENTER
IN THE REPUBLIC OF INDONESIA

The Japanese Consultation Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Yukitoshi NAGASAWA, Head of Technical Cooperation Division, Mining and Industrial Development Cooperation Department, JICA, visited the Republic of Indonesia from August 21 to August 25, 1989 for the purpose of reviewing the activities of the project for the Indonesia Export Training Center in the Republic of Indonesia (hereinafter referred to as "the Project") and working out the Annual Work Plan for the further promotion of the Project.

During its stay in the Republic of Indonesia, the Team exchanged views and had a series of discussions with Indonesian authorities concerned in respect of the achievement of technical cooperation conducted on the Record of Discussions, Tentative Schedule of Implementation and Minutes of Meetings signed on September 2, 1988 and necessary measures to be taken by JICA and the Indonesian side for the successful implementation of the above-mentioned Project.

As the result of discussions, both parties mutually agreed upon the matters referred to in the document attached hereto and to make the utmost efforts for the effective and successful implementation of the Project during the cooperation period.

Jakarta, August 25, 1989



Mr. Yukitoshi NAGASAWA
Leader
Japanese Consultation Team
Japan International Cooperation Agency



Mr. Donnie UJATNIKA
Chairman
Indonesian Team,
Ministry of Trade,

THE ATTACHED DOCUMENT

Presentation

Discussions were immediately opened by the Indonesian side who presented the meeting with three (3) prevailing problems.

1. Organization.

This has yet to be completed as it is still being proposed to the Ministry of Government Apparatus Reform (MENPAN).

The problem of double function among the counterpart personnel is yet to be resolved. The counterparts of the IETC are also the staff of other organizations within the Ministry of Trade who are assigned temporarily.

2. Personnel assignment

Besides the bi-function of the respective counterparts, they cannot be confirmed to their positions within the IETC due to the pending confirmation of the IETC Organization itself from the Ministry of Government Apparatus Reform (MENPAN).

3. Future plans at personnel assignment.

The budget for fiscal year 1989/90 has been proposed and it is still in the process stage.

The decisions from the Ministry of Finance has stipulated that Rp 300 million only has been allocated for the 1989/90 fiscal year. This sum includes the sum of Rp 105 million for consultant fee.

Therefore the Indonesian side requested from the Ministry of Finance the sum of Rp 1,603 million, the breakdown of which is as follows :

1. Administration expenses
2. Materials
3. Materials & Equipment
4. Maintenance & Operational
5. Publication
6. Training activities.

The Japanese side requested that IETC will be authorized as a structural organization under the Ministry of Trade so that the Center is entitled to accommodate enough number of counterparts and acquire sufficient budget to implement the project with the cooperation of the eight Japanese experts JICA has despatched.

It has been pointed out by the Indonesian side that the training center will only be authorized through a Presidential Decree. The decree is expected to be issued after three months. However, the Indonesian side assured the Japanese side that they will endeavour to accelerate the procedure.

Further discussions were centered on the Business Japanese Language course.

According to the Japanese side, if Indonesia side wishes to start the Business Japanese Language course in October then it should first appoint full-fledged counterparts to the Japanese expert.

The Indonesian side stated that they still face some problems, e.g. a lack of qualified counterparts, double functions of the staff, insufficient budget, etc.

From the Indonesian side, preparations have been made to invite the participants from state enterprises, the Indonesian Chamber of Commerce, associations and other governmental agencies in the courses besides participants from the Ministry of Trade alone. It would also serve as a promotional effort as far as the IETC is concerned.

The Japanese language course should therefore form the first steps in developing further courses programmed for the IETC project such as the Trade, Exhibition, Inspection and Quality Control courses.

Nevertheless, the Japanese side felt that a permanent and qualified counterpart for the expert should be appointed for the success of the Japanese Business Language Course.

NOMINATION OF COUNTERPARTS

The Japanese side pointed out that the number of the counterparts shown to the Team is too small in number as compared to the Indonesian Commitment in the Record of Discussions and hence the Indonesian side should allocate at least 30 full-fledged permanent counterparts. The number of eleven (11) is far from sufficient and their posts are double functional.

The Japanese side inquired as to the status of the nominees for counterparts as it is important to first nominate those who have been sent for training. Japan also

asked that the returned trainees be confirmed as nominees for counterparts. A request was also put forward for other names as counterparts, besides those sent to Japan.



According to Indonesia, it is not so easy to find qualified persons as full time counterparts but they would try their best to find them as soon as possible.

The Indonesian side assured the Japanese side that the trained personnel will be fully effective if the Presidential Decree concerning the organizational status has been issued.

The Japanese side inquired about the deadline for recruiting 30 persons to the Indonesian team, which was stipulated that they will do their best to have it done in the shortest period of time.

The Indonesian team explained that the Presidential Decree will be issued together with decrees for other departments/institutions. The important thing is that the Ministry of Government Apparatus Reforme had accepted the proposal and had submitted it to the Secretary of the Cabinet.

The three pages of staff/counterpart proposal could be regarded as a draft decree of nomination (attached). If the Minister approves, it can be signed by the Secretary General of the Ministry of Trade on his behalf.



BUDGET

Upon the inquiry of the Japanese side on how the Indonesian side will obtain the budget, the Indonesian team explained the request should be submitted to Bappenas and the Department of Finance.

Regarding why out of the Rp 1,603 million requested budget only Rp 300 million is approved, the answer is due to two reasons:

1. Budget constraints
2. Rp 300 million is only for basic activities

If Bappenas and the Ministry of Finance evaluate IETC's activities, there must be a possibility that the additional budget will be approved.

Equipment

On the matter of equipment, the Indonesian team said that not all of the equipment proposed by them in 1988 was approved by the Japanese Government, such as facsimile machine, parabolic antenna, book cases, overhead projector, video recorder, screen, filing cabinets and a vehicle which can accommodate 40 people. So far they have received one van for the use of the center.

The Japanese team explained that since IETC's building and facilities are provided by the Japanese grant aid scheme, the budget for Japanese technical cooperation is only supplementary. Any equipment, if felt necessary, could be provided within the framework of the technical cooperation of the Japanese Government.

The Indonesian side insisted the necessity of a parabolic antenna for the Japanese language learning, but the Japanese side stated that the antenna is not regarded as an effective aid.

Business Japanese Language Course

The Indonesian side emphasized the need to train their staff in the Japanese language skill and stated that, after two postponements the pre-trial run of the course is scheduled for October.

The participants to the course will consist of managers and staff members of the private sectors, government officials, language teachers in general, etc.

There will be 20 trainees for the basic language courses spanning the length of three months with three-and-a-half hours per day, making it approximately 300 hours of study.

Two time slots have been chosen: 8.30 - 10.00, 10.00 - 12.00 or 14.00 - 15.30, 16.00 - 17.30. It was reported that certain time slots such as 16.00 - 17.30 would be more suitable for the government officials. Friday courses can start at 14.00 while Saturday at 15.00. Nevertheless, the Indonesian team stated that the schedule can be adapted.

As for training methods, the Indonesian side explained that the language laboratory system and lecturers in classroom were two examples. Training materials consist of textbooks, complete set of language laboratories supplied by the Japanese Government and audio visual materials.

The Japanese side stated that the assignment of qualified full time counterparts is the pre-requisite to start the course. However, there seems to be no available counterpart at the present moment to cooperate with a Japanese expert at the full-time basis.

With this view in mind, the Japanese side inquired as to the necessity of conducting the Japanese language course in a hurry when the lack of teachers is apparent. They suggested that the pre-trial run be postponed again until after one counterpart returns from her training in Japan.

It was then decided that since there were difficulties in the implementation of the language course, other courses would be conducted such as the trade training and inspection quality control course, the Japanese team stipulated.

Pre-trial courses

(1) Trade Training

After discussions from respective parties, several conclusions were made. Since there are no full-time counterparts assigned for the trade training course at present. The pre-trial course may start in January 1990, or earlier.

(2) Inspection and QC

The inspection training courses will be conducted in March 1990 with the cooperation of the counterparts returning from Japan and the technical people (operators) who were trained

by the Japanese engineers for the installation of the grant aid equipment. The assignment of these operators to the course is strongly requested by the Japanese side.

(3) Exhibition course

The exhibition training course will be conducted in January and March 1990 on the condition that Mr. Tambunan be assigned to the course as a full-time counterpart by the end of September, 1989.

Others



(1) Library

The Indonesian side asked the Japanese side to equip the IETC library with relevant books and materials in addition to those prepared by the Indonesian side.

The Japanese side stated that the books are to be provided to the Project through the Japanese experts as part of teaching materials. They might be used by both the Japanese experts and the counterparts.

(2) Budget

With regard to the fiscal budget of 1988/89, the Japanese mentioned that the sum could cover only a small portion of the total amount needed for 1989/90, undetermined part of the 1989/90 period.



On the matter of the inauguration of the IETC, it was put forward by the Indonesian side that the necessary fund would not be allocated by the 1989/90 IETC budget but by other sources.

The Japanese side brought forward the problem of the IETC pamphlet which was submitted to the Secretary General of the Ministry of Trade and now awaits approval and revision. The Indonesian team promised to check on the matter as soon as possible.

An inquiry was also made to the absence of allocation for local travelling expenses. The Indonesian side pointed out that the expense, if any, would be covered under item Publications and other expenses. The expense only involved travelling costs in Jakarta for visits to factories and conducting interviews to exporters.

The Japanese side pointed out that there is no allocation of budget to a dormitory and cafeteria and the Indonesian side stipulated that there will be no budget allocation for this fiscal year but will be put forward for the forthcoming fiscal budget.

(3) Subsidy to the training costs

To a request by the Indonesian team, whether the Japanese side can subsidize to the participants of certain training courses, the Japanese team explained that there are exceptionally cases where a certain budget could be provided, e.g. curricular development expenses,

honorarium for lecturers from outside, etc. But presently there was no activity as yet and hence it is too early for the Indonesian side to ask for such a subsidy.

While the Japanese team repeatedly asked the increase of the IETC budget, the Indonesians assured the Japanese that they would negotiate vehemently with Bappenas and other offices concerned for their additional budget.

(4) Number of IETC Personnel

The Japanese team confirmed the allocation of the Indonesian paper on the personnel as listed in the Record of Discussions signed in September last year - remark that 187 personnel are needed.

Also regarding to the organization chart for IETC, the Japanese side asked the Indonesian side to show the number of personnel for each division, the actual member being in brackets.

The Japanese team requested that two more counterparts shall be added to the Inspection and Quality Control Division (Textiles & Garments). This means that the total number of the immediate Indonesian counterparts will be 32 instead of 30.

LIST OF ATTENDANTS

A. Indonesian Side

1. Mr. Donnie Djatnika, Director IETC
2. Mr. M.I. Krismurti, Director ETTC
3. Mr. R.M. Sudianto, Head Bureau of Organization
4. Mr. M. Djufri Idris, Head, Division, IETC
5. Mr. Nurdin Noor, Head, Division, IETC
6. Ms. Nurlaili, Head, Division, IETC
7. Mr. Januar, Head, Division, IETC
8. Mr. I. Hendriana, Head, Division Bureau of Planning
9. Ms. Lily Rosyana, Head Division, Bureau of Pural
10. Mr. Dulimin, Head, Division Bureau of Personnel
11. Mr. Akinaga Sinaga, NAFED
12. Mr. Albert Batti, Testing & Quality Control Centre
13. Mr. Andi Dewang, Bureau of Public Relations
14. Mr. Supriyadi, Bureau of Public Relations
15. Mr. Tjarisan S. Bureau of General Affairs

B. Japanese Side

1. JICA Consultation Mission

(1) Mr. Yukitoshi NASAGAWA, Leader
Head, Technical Cooperation Division
Mining & Industrial Development Cooperation Department
Japan International Cooperation Agency (JICA)

(2) Mr. Shigeho CHIBA, Member
Technical Cooperation Division
Mining & Industrial Development Cooperation Department
Japan International Cooperation Agency (JICA)

(3) Mr. Masashi KINOSHITA, Member
3rd Training Division
Training Affairs Department
Japan International Cooperation Agency (JICA)

2. Embassy of Japan

Mr. Haruhiko KURAMOCHI
First Secretary

3. JICA Indonesia Office

Mr. Teruyoshi KUMASHIRO
Assistant Resident Representative

4. JICA Advisory Team

(1) Mr. Takashi YAMAMOTO, Chief Advisor
(2) Mr. Ryuma HIRAYAMA, Coordinator

- (3) Mr. Norihiro KURIHARA, Expert for Trade Training
- (4) Mr. Keijo AOKI, Expert for Trade Training
- (5) Ms. Toshiko HONDA, Expert for Business Japanese Language Training
- (6) Mr. Yoshimasa SANO, Expert for Inspection & Q.C. (Wooden/Rattan)
- (7) Mr. Takamitsu FUKUMA, Expert for Inspection & Q.C. (Textile/Garments)
- (8) Mr. Keisuke YAMAMOTO, Expert for Inspection and Q.C. (Rubber/Rubber Products)

62

IEIC REQUIRED I & II AND AVAILABLE BUDGET FISCAL YEAR 1989/90 (in thousand rupiah)

No. "	A C T I V I T I E S	REQUIRED BUDGET I *	REQUIREDBUDGET II **	AVAILABLE BUDGET	SHORFAGE BUDGET
		RP.	RP.	RP.	RP.
1.	ADMINISTRATION EXPENSES	29.695,50	446.760	8.064	438.696
2.	M A T E R I A L S	36.000,00	36.000	2.200	33.800
3.	MACHINARIES & EQUIPMENT	284.900,00	349.365	18.895	330.470
4.	MAINTENANCE & OPERATIONAL	545.000,00	539.000	23.800	515.200
5.	CONSULTANT FEE	316.000,00	316.000	105.644	-
6.	P U B L I C A T I O N	34.500,00	34.500	15,717	18.783
7.	OTHER EXPANCES	245.820,00	245.820	119.840	125.980
8.	TRAINING ACTIVITIES	111.151,75	144.500	37.646	106.854
T O T A L		RP. 1.603.067,25	2.111.945	331,806	1.569.783

* With Personnel Expenses
 ** Without Personnel Expenses

1



MENTERI PERDAGANGAN
REPUBLIK INDONESIA

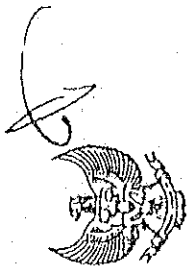
LAMPIRAN INSTRUKSI MENTERI PERDAGANGAN R

HOKOR :

TANGGAL :

NO	NAME / PERSONNEL NUMBER	RANK	POSITION IN THE INDONESIA EXPORT TRAINING CENTRE
1	Djoko Mulyono, SB NIP. 070008335	III/b	Administration Division Assistant
2	Sri Astuti NIP. 070003374	III/a	Administration Division Assistant
3	Dra. Utari Kurnianingsih NIP. 070023873	III/a	Administration Division Assistant
4	Drs. Halomoan Sinaga NIP. 070023750	III/a	General Affairs Division Assistant

S Supriyadi

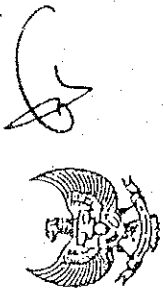


MENTERI PERDAGANGAN
REPUBLIK INDONESIA

- 2 -

NO	NAME / PERSONNEL NUMBER	RANK	POSITION IN THE INDONESIA EXPORT TRAINING CENTER
5	S u p r i y a d i ----- NIP. 070004294	II/d	Trade Training Division Assistant
6	Drs. Saor Hantangar Tambunan ----- NIP. 070004620	III/a	Exhibition Training Division Assistant & Counterpart.
7	Ir. Huzairin Patunrangli ----- NIP. 070023971	III/a	Testing & Quality Control Assistant & Counterpart
8	Dra. Handaya Retno ----- NIP. 070003962	III/a	Counterpart
9	Muchlis Syahminan, SH ----- NIP. 070002719	III/b	Counterpart
10	Ir. Retno Kusumo Astuti ----- NIP. 070006176	III/c	Counterpart

Il Ir. Andreas Anugerah, MA



MENTERI PERDAGANGAN
REPUBLIK INDONESIA

- 3 -

NO	NAME / PERSONNEL NUMBER	RANK	POSITION IN THE INDONESIA EXPORT TRAINING CENTRE
11	Ir. Andreas Anugerah, MA ----- NIP. 070005598	III/c	Counterpart
12	Ir. Lili Sullani Haryati S, MA ----- NIP. 070005969	III/c	Counterpart
13	Istislati Hendraswani ----- NIP. 070024590	II/b	Counterpart
14	Dra. Julia G. Silalahi ----- NIP. 070024217	III/a	Counterpart
15	Dra. Hurnalme Hasan ----- NIP. 070004093	III/d	Counterpart

A.n. MENTERI PERDAGANGAN RI

SEKRETARIS JENDERAL

BAKIR HASAN

REVISED SCHEDULE OF IMPLEMENTATION FOR 1989/90 FY

Training Courses	- 12	1	2	3	4	5	6	7
I. Trade Training								
II. Business Japanese Language Training								
III. Exhibition Training								
IV. Inspection & QC Training								
(1) Wooden/Rattan Products								
(2) Textile/Garments								
(3) Rubber/Rubber Products								
(4) Frozen/Canned Foods								

Subject to assignment of C/Ps (full-time) as future instructors
by the end of September, 1989

JICA